

3) スーパーローテーション卒後研修における大学病院と関連病院の役割

新潟大学医学部小児科学教室 (主任: 内山聖教授)

内山 聖

Roles of University and City Hospitals in
Postgraduate Rotation Programs

Makoto UCHIYAMA

*Department of Pediatrics,
Niigata University School of Medicine
(Director: Prof. Makoto UCHIYAMA)*

Rotations in several departments are demanded of medical school graduates as postgraduate education programs, since there are too many specialists with less experience of general practice now in Japan.

Postgraduate education has been carried out mainly in University Hospitals, however the number of patients with common diseases are much less there than in city hospitals. Therefore, it is better to undertake postgraduate rotation program in cooperation with city hospitals. Duration and type of rotation are discussed for the purpose.

Key words: postgraduate education programs, rotation system university hospital,
city hospital
卒後教育, ローテーション制度, 大学病院, 市中病院

はじめに

国立大学附属病院に求められている役割の一つとして、各領域における最先端医療の遂行があげられる。医療の進歩に伴う専門分化は必然的な趨勢といえ、私どもの大学病院においても診療科や診療内容は細分化の方向にあるといえる。このような状況下で、新潟大学医学部におけるほとんどの診療科はストレート方式の入局制度を採用しており、各科でそれぞれに研修カリキュラムを工夫してはいるものの、大局的には限られた分野の専門家を養成する結果となっている。

一方、通常みられる疾患 (common disease) が適

切に診られない、あるいは救急疾患に対応できない専門医の存在が社会的にしばしば問題になっている。そのため、卒後臨床研修には適切な判断力と診断治療のための基本的手技、さらに全身管理能力を身につけた上で専門を目指す医師の育成が求められている。

期待される医師像

医療関係者審議会臨床研修部会が平成元年6月14日、当時の厚生大臣である小泉純一郎氏に提出した意見書では、期待される医師像として以下の態度や能力が求められている。すなわち、1) 生涯教育を受ける習慣・態度、2) 科学的妥当性、探究能力、3) 高い倫理観と豊かな人

Reprint requests to: Makoto UCHIYAMA,
Department of Pediatrics, Niigata
University School of Medicine,
Niigata City, 951-8510, Japan

別刷請求先: 〒951-8510 新潟市旭町通1番町757
新潟大学小児科 内山 聖

間性, 4) 社会発展に貢献する使命感と責任感, 5) 自己の能力の限界を自覚し, 他の専門職と連携する能力, 6) チーム医療のコーディネーターとしての機能, 7) 後輩の医師を指導できる能力, 8) 地域の指導者の役割を果たす能力, である。

スーパーローテーションのカリキュラム

国立大学医学部附属病院長会議常置委員会が平成10年12月に示した卒後臨床研修共通カリキュラムでは, 1) 2年間の研修期間中, 共通カリキュラムに費やす研修期間を暫定的に18ヶ月とする, 2) 内科, 外科, 小児科, 産婦人科, 救急部あるいは麻酔科をローテーションする, 3) 必要であれば, ローテーションは病院群単位で行っ

表1 ローテーション例
(国立大学医学部附属病院長会議常置委員会)

例1	内科希望者, 小児科希望者, 眼科希望者
1)	内科 3ヶ月
2)	外科 6ヶ月
3)	小児科 3ヶ月
4)	産婦人科 3ヶ月
5)	救急部または麻酔科 3ヶ月
6)	選択科 6ヶ月
例2	外科希望者, 泌尿器科希望者
1)	内科 3ヶ月
2)	外科 3ヶ月
3)	小児科 3ヶ月
4)	産婦人科 3ヶ月
5)	救急部 3ヶ月
6)	麻酔科 3ヶ月
7)	選択科 6ヶ月

てもよい, の基本原則が掲げられている. ここで示されている具体例を表1に示すが, 細切れ研修の連続で, 果たしてどの程度実効があがるか誰もが感じる不安である. 卒後研修の充実是指導医も研修医も皆が望んでおり, よりフレキシブルな運用が不可欠である.

大学の役割, 市中病院の役割

例えば, 私どもの大学病院小児科病棟は一般市中病院では診療する機会が少ない重篤な疾患ばかりである. common disease や救急疾患も診るという前述の卒後研修目標を考えれば, 大学病院と市中病院が協力して卒後研修を行う必要があることは明白である.

平成11年6月5日, 文部省高等教育局医学教育課・大学病院指導室長, 杉野剛氏による「大学病院をめぐる諸課題」と題する講演が行われた. 杉野氏は卒後臨床研修について, 大学附属病院は慢性疾患が多く研修に偏りが生じる恐れがあり, スーパーローテーション研修は関連病院と一緒にいった方がよい, また, 責任の所在や指導の一貫性を確保するため, 大学が全体を指導し, 管理するのが望ましいと述べられた.

他大学における試み

名古屋大学医学部附属病院は平成12年度医員(研修医)をインターネットでも募集しており (<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/study>), 具体的な初期臨床研修コースが示されている(図1). B~D コースのいずれも2年間を一単位としたスーパーローテーション方式を採用しているほか, 大学病院での研修期間を10, 16, 24カ月と幅広く選択できるようにしており, 実現性を重視したプログラムである. 但し, 具体的な研修コース例をみると内科2カ月, 小児科2カ月, 泌尿器科1カ月, 眼科1カ月など相当細切れの例が示されており, 果たし

Aコース (基盤分限外)	臨床専門医コース 実地臨床医コース	オリエンテーション後、一般病院で研修
Bコース	臨床専門医コース 臨床研究医コース	オリエンテーション後、10ヶ月間大学病院で、ローテート研修、その後一般病院で最低12ヶ月間の研修
Cコース	臨床専門医コース 臨床研究医コース	オリエンテーション後、16ヶ月間大学病院で研修、その後一般病院で研修(選択は自由)
Dコース	基礎、社会医学志望者向けコース 臨床基盤トレーニングコース	オリエンテーション後、大学病院で研修(必要に応じて他施設での研修可能)
※ B~Dの各コースは内科、外科、産婦人科、小児科、麻酔科を必修科とする。		

図1 名古屋大学医学部附属病院における初期臨床研修コース

て1カ月で何ができるのか疑問である。しかし、他で実行し得ないでいることをいち早く実行に移したことは大いに評価されるべきである。

今後の動向

新潟県における医療は、歴史的、地理的要因から新潟大学一校の比重が極めて大きい。したがって、県や医師会の協力のもと大学と関連病院が一体となって卒後教育の一貫性や指導方針の一体化を図ることができ、これは他県にない大きなメリットである。

このような流れから、平成11年6月10日、新潟県、県医師会、県内主要病院、新潟大学医学部が発起人となり、新潟臨床研修研究会が発足した。この研究会は、1) 臨床研修に関する情報交換、2) 臨床指導医の意識啓発、3) 臨床研修病院相互の連携を目的としている。今回の会議では、来春から現行の研修医制度のもとで大学と関連病院が協力してスーパーローテーション研修を開始したいとの話し合いがなされたようであるが、今後の進展が期待される。

さいごに

スーパーローテーション卒後研修をめぐる最近の動向を紹介したが、個人的には余り型にこだわりすぎるのもどうかという危惧の念をもっている。たとえば、冒頭に紹介した医療関係者審議会臨床研修部意見書で具申されている「高い倫理観と豊かな人間性を有する医師」養成は卒後教育の最も重要な目標の一つと考えるが、医学部附属病院長会議常置委員会が示した卒後臨床研修共通カリキュラムからは、自らのアイデンティティーを見失い、ただ目まぐるしく各科をローテイトする研修医の姿しかみえてこない。高い倫理観と豊かな人間性をもつ社会人としての医師教育は、責任の所在がはっきりしている今までのストレート方式の方が適しているのではないだろうか。但し、今更議論を差し戻すつもりは毛頭なく、今後はストレート方式のメリットも考慮したスーパーローテーション方式の工夫など、社会人教育の観点も踏まえて議論を積み重ねていく必要があると考える。

司会 ありがとうございます。内山先生の仰る様に型にはめてしまう懸念がありますが、今内山先生にご質問ある方はどうぞ。では、次に市民病院での研修について樋熊先生お願いします。

4) 新潟市民病院でのスーパーローテート卒後研修について

新潟市民病院 樋熊紀雄

Postgraduate training of young doctors
at Niigata City General Hospital

Norio HIGUMA

Niigata City General Hospital

Niigata City General Hospital was established on 25th Oct. 1973 with the aim of providing medical care for the citizen of Niigata city as well as to provide postgraduate education for young doctors. Twenty years has passed since 1979 when it was appointed by the Ministry of Welfare and became the clinical training center for newly graduates.

Reprint requests to: Norio HIGUMA
Niigata City General Hospital 2-6-1
Shichikuyama Niigata 950-8973 Japan

別刷請求先: 〒950-8739 新潟市紫竹山2-6-1
新潟市民病院 樋熊紀雄